

祈りを受け継ぐ。



撮影 姉川裕一



【起源】

黒髪神社の流鏑馬は、永万元年（1165年）。他に久寿元年1154年等諸説あり）から奉納されたと伝えられています。その起源は、黒髪山にまつわる大蛇退治の伝承です。かつて黒髪山には、人々を苦しめる大蛇が棲んでいたと伝えられています。そこで、人々は大蛇を退治できるような祈りを捧げました。その願いが叶えられ平安が戻ったことから、神への感謝を込めて流鏑馬を奉納したことが、「黒髪神社の流鏑馬」の始まりとされています。

射手インタビュー

（社）CLUBRIO代表理事
葉隠神正流流鏑馬

射手 永松 良太さん

馬好きが高じて馬に関わる仕事をしたと思います、現役競走馬の事業や、引退競走馬の支援活動を行い、今年で28年目となりました。山内の方々が誇りを持って大切にされている黒髪神社の流鏑馬に、大好きな馬と一緒に携われることは本当に光栄です。馬は自分の写し鏡のような存在で、当日は馬と心を通わせることで、人馬一体となり、身体が自然に導かれるような特別な感覚を表現できればと思います。流鏑馬を未来につなぐには、馬が健康で適切に管理できる環境を整え、馬が地域で活躍できる場を作ること大切だと思います。自然と調和した黒髪神社の流鏑馬を、ぜひ見てほしいです。



インタビュー

黒髪神社の流鏑馬奉賛会



会長
鳥谷 竹人さん

黒髪神社の流鏑馬は、立野川内、大野、宮野の3つの地区が順番に神事を取り仕切る「縮元」を務め、下黒髪区と併せ、地域全体で支えています。的に使う竹は一本一本状態を確かめ、竹の節は「奇数」でなければならぬなど、昔から受け継がれてきた決まりに従って手作りします。また、ドンコの確保も欠かせません。用意した魚は焼いて干物にし、しっかりと乾燥させます。こうした一つ一つの作業に、多くの

人の手間と時間がかかっています。流鏑馬を続ける中で、地域の人たちが顔を合わせる機会が増え、自然と人の輪ができてきました。準備を通して顔見知りになれば、困ったときに助け合うこともできる。それは、災害など、いざという時にも力になります。流鏑馬は伝統を守ることだけでなく、地域のつながりと団結力を育む場にもなっています。当日には稚児行列も行われ、子どもたちも神事に参加します。神様を大切にする想いと、地域の人々の力で受け継がれてきた黒髪神社の流鏑馬を、ぜひ見に来てください。

見どころ

神様を大切に受け継がれてきた黒髪神社の流鏑馬。三つの的を七回射る「三的の七登り」や、緑に囲まれた壮観な馬場での騎射、未来の射手を目指す子供流鏑馬の姿は圧巻です。

黒髪神社の流鏑馬の特徴

※ドンコが付いた的



鎌倉幕府の使者に振舞ったところ美味と喜ばれた故事にちなみます。山の神はドンコを好むとの習俗があり、神前に供えます。

※全長15cm程の川や池に生息する淡水魚（ハゼの仲間）

ひきめ 墓目神事



笛のような音が鳴る鏑矢を射放ち、その音と神聖な弓矢の力で邪気を祓います。大蛇退治の際、妖魔退散の神事として行われました。

ほろ 母衣引き



武士が戦の際に馬上で背中に長い布（母衣）を風にはためかせたり丸めたりして、流れ矢を防ぎました。

黒髪神社 流鏑馬

10/29 木

- 10:00～
例大祭
- 13:00～
上り馬（馬場から行列）
- 13:10～13:40
弓矢授け神事（社殿）
- 13:50～14:40
御神幸
- 14:50～16:20
流鏑馬
14:50～堂廻り
15:00～馬場開き、騎射
16:00～子供流鏑馬、
16:20～下り馬・戻り馬
- 16:30～
流鏑馬納め